

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育原理 The Principles of Nursery Education		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育内容総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火・水・木・金 9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育の意義と理念、保育の思想と歴史、保育施設の制度と機能、保育の内容と方法、そして保育の計画を題材にして、保育者にとって必要な保育に対する基本的な考え方、見方を学習し、多様な保育ニーズにこたえられる保育者立場として、保育全般に対する理論的な確認方法を探る。				
授業の目標				
①子どもと保護者と、ともに保育を創造するための基礎的な知識・技術を取得することができるようにする。 ②保育の意義と理念、保育の思想と歴史について基本的な認識を身に付けることができるようにする。 ③諸外国の保育の現状についても認識を深め、子どもにとって最善の保育を求めようとする基本的な態度を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
講義を中心とし、テキスト、配布資料を確認しながら授業を進める。毎回その日の授業内容のまとめとなるプリントを配布し、学びを深める活動とする。				
学習の成果(学習成果)				
①子どもと保護者と、ともに保育を創造するための基礎的な知識・技術を取得することができる。 ②保育の意義と理念、保育の思想と歴史にを踏まえて、現代日本の保育の坤為地的課題とその改善への方向性を考究することができる。 ③諸外国の保育の現状と課題を意識し、子どもにとって最善の保育について考えをまとめることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス～授業の進め方と学び方 他～			
第2回目	第1章 「保育」の意味を考える。			
第3回目	第2章 保育の「場」について知る。			
第4回目	第3章 保育の思想・歴史を学ぶ① 保育の歴史的人物に焦点を当てレポートにまとめる。(授業内で指示します)			
第5回目	第3章 保育の思想・歴史を学ぶ② 小テストの実施(授業内で指示します)			
第6回目	第4章 保育をどのように考え、進めるべきかを考える。			

第7回目	第5章 保育所保育の内容を学ぶ。	
第8回目	第6章 保育の計画と保育の質の向上①	
第9回目	第6章 保育の計画と保育の質の向上② 小テストの実施（授業内で指示します）	
第10回目	第7章 子どもの健康と安全への配慮を考える。	
第11回目	第8章 多様化する保育ニーズを理解する。	
第12回目	第9章 保育者に求められる家庭支援を考える。	
第13回目	第10章 育ちや学びの連続性を考える。	
第14回目	第11章 保育者のあり方考える。 第12章 保育の今後の課題を考える。	
第15回目	第1章から第12章までの確認、問題提起と向きあう。	
事前・事後学習	学ぶ章を示しているので、事前にテキストに目を通しておくこと。配布資料等は適切にまとめてファイリングし必要に応じて目を通すこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	板書だけではなく、口頭による講義内容も積極的に書き残す姿勢があること。毎回の授業で配布されるプリントへの記入は空欄なく書くことができていること。
レポート	20%	保育歴史の中で登場する保育者・教育者・哲学者などに焦点を当て、思想やメソッドを調べ、自分なりの解釈を盛り込んだレポートとすること。表紙をつけ、教材等の資料も添付して期限を厳守して提出すること。
調査報告書		
小テスト	20%	第5回、第9回で小テストを実施する。授業内で設問の回答確認と解説も実施し、自分の理解度と向き合う。
試験	50%	授業で学んだこと、自分で興味を持ち学習したこと、さらに、保育者としての必要な学びについての設問に答え、自分の考え方が示されていることも求める。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
「新・保育原理」みらい 参考図書：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識を持って臨むこと。		